

保土ヶ谷工場の再整備について

横浜市のごみ処理を将来にわたり安定して継続させていくため、現在休止中の保土ヶ谷工場の再整備を行います。再整備にあたっては、安全で安定したごみの焼却をはじめ、自然災害への対応や、脱炭素社会の実現のため、次の3つの視点で進めていきます。

1 安全で安定したごみ処理を行う焼却工場

- (1) 処理能力
1,200トン/日（これまでの保土ヶ谷工場と同等）
- (2) 環境保全対策
排ガスや排水の処理に高性能な設備を導入し、しっかりとした環境保全対策を講じます。
- (3) 施設の強靱化
大規模災害にも耐えうる施設とし、長期間にわたる停電や断水などの非常事態発生時においても、ごみの焼却を行います。

2 地域に根ざした焼却工場

- (1) 大規模災害への備え
災害による長期間の停電発生時において、ごみの焼却で得られる電気を活用するなど、地域の皆様の安全安心につながる方策を検討します。
- (2) 環境学習の拠点
子どもから大人まで、環境について広く楽しく学べるよう、市民の環境学習の拠点となる施設にします。
- (3) 熱の有効活用
ごみの焼却により発生した熱について、市民サービスの向上に資するよう有効活用します。

3 脱炭素社会の一翼を担う焼却工場

- (1) 創エネルギー
高効率な発電設備の導入やごみの性状に合わせた最適な運転管理により、環境にやさしいエネルギーを最大限創出します。
- (2) 活エネルギー
焼却工場で創出した環境にやさしいエネルギーを市域で活用することで、脱炭素社会の実現と市内経済の活性化につなげます。
- (3) 蓄エネルギー
エネルギーをより効果的に使用できるよう、蓄電池設備の導入を検討します。災害時には、蓄えた電気を非常用電力として活用します。

◆整備スケジュール（予定）

令和 4年度	5	6	7	8	9	10	11
基本設計	事業者 公募・選定	建設（詳細設計・施工）					
中継輸送施設整備（詳細設計・施工）							